



- 1935 10月：小原基八が小原光学硝子製造所を創立、東京蒲田にて操業開始
- 1936 11月：光学ガラス熔解開始
- 1944 2月：株式会社に改組、神奈川県相模原に工場を新設
- 1954 5月：白金坩堝熔解開始
- 1958 4月：ランタンガラス生産開始
- 1961 1月：連続熔解ストリップ方式生産開始
- 1962 10月：足柄光学株式会社の株式取得
- 1969 7月：オハラガラス、アポロ11号に搭載
- 1975 8月：低屈折分散ガラス(S-FPL51)生産開始
- 1981 8月：Ohara Optical Glass Inc. (米国) (現・Ohara Corporation) 設立
- 1982 3月：オハラガラス、スペースシャトル・コロンビア号に搭載
- 1983 3月：ステッパー用ハイホモガラス ( $\Delta n \pm 0.5 \sim \pm 1.0 \times 10^{-6}$ ) 量産開始
- 1984 3月：高エネルギー物理学研究所へチェレンコフガラス納入開始
- 1985 5月：株式会社オハラに社名変更
- 1986 9月：台湾小原光学股份有限公司設立
- 1987 3月：紫外線(365nm)高透過ガラス生産開始
- 5月：有限会社オーピーシー(現・株式会社オーピーシー) 設立
- 1988 8月：結晶化ガラス生産開始
- 1990 1月：OHARA GmbH (独国) 設立
- 1991 9月：環境対策光学ガラス生産開始
- 11月：OHARA OPTICAL (M) SDN.BHD. (マレーシア) 設立
- 1993 3月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)生産開始
- 1994 11月：ハードディスク基板用ガラスセラミックス生産開始
- 1997 3月：光学ガラス推奨112種類(当時)のすべてをエコ化
- 1998 4月：ISO9001認証取得
- 1999 1月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラSCに搭載
- 2000 1月：低光弾性ガラス生産開始
- 4月：ISO14001認証取得
- 10月：真空紫外域屈折率測定受託サービス開始
- 2002 5月：小原光学(香港)有限公司設立
- 6月：大規模連続熔解開始
- 12月：小原光学(中山)有限公司(中国) 設立
- 2005 10月：東京証券取引所第一部へ株式上場
- 2006 11月：ファイバー用エコガラス(内視鏡用など)生産開始
- 2007 2月：低蛍光ガラス(顕微鏡用など)生産開始
- 9月：オハラガラス、月周回衛星「かぐや(SELENE)」に搭載
- 2008 7月：株式会社オハラ・クオーツを連結子会社化
- 2011 3月：華光小原光学材料(襄陽)有限公司(中国) 設立(合併)
- 2012 3月：台湾小原光学材料股份有限公司設立
- 8月：オハラガラス、すばる望遠鏡の主焦点カメラHSCに搭載
- 2013 5月：リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)発売開始
- 2014 2月：ハードディスク用ガラス基板事業からの撤退
- 3月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、TMT天体望遠鏡に採用
- 12月：オハラガラス、はやぶさ2の分離カメラに採用
- 2015 3月：非球面ガラスモールドレンズ量産供給開始
- 10月：創立80周年
- 12月：耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)発売開始
- 2016 1月：耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス(ナノセラム™)、交換レンズ用高級フィルター「WV CERAMIC PROTECTOR」に採用
- 8月：リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス(LICGC™)を使用した全固体電池試作品が-30℃で駆動
- 2017 5月：世界初、車載カメラ専用光学ガラス材発売開始
- 12月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、超低高度衛星技術試験機「つばめ(SLATS)」に採用
- 2018 9月：非球面ガラスモールドレンズ新工場稼働開始
- 2019 2月：極低膨張ガラスセラミックス(クリアセラム™-Z)、国内最大の望遠鏡「せいめい」に採用

提供：国立天文台  
協力：三菱電機株式会社

提供：株式会社シグマ

JAXA

JAXA

編集方針

オハラレポートは、事業活動とCSR活動に関する取り組みをステークホルダーの皆様に分かりやすくお伝えし、ご理解いただくことを目的としています。

特集では、コーポレート・メッセージ策定の詳細とMMB推進プロジェクトから新プロジェクト再編についてご紹介し、オハラの継続的な取り組みについては「企業倫理の基本理念」に沿った構成でご報告します。

また、トピックスにあわせて2つの主要製品(光・エレクトロニクス)の業務に関わる社員をご紹介します。本レポートを通じて、オハラをより身近に感じていただければ幸いです。

報告対象範囲

株式会社オハラ単体の活動を中心に掲載しています。  
\*ただし、決算数値についてはグループ会社を含みます。

報告対象期間

2019年度(2018年11月1日~2019年10月31日)  
\*ただし、一部については2020年度の内容を含みます。

発行時期

2020年1月  
前回：2019年1月  
次回：2021年1月予定

参照ガイドライン

GRI「GRIサステナビリティ・レポート・ガイドライン」  
環境省「環境報告ガイドライン2012年版」



お問い合わせ先  
〒252-5286 神奈川県相模原市中央区小山1-15-30  
総務人事センター 総務部  
TEL: 042-772-2101(代) FAX: 042-774-1071  
ウェブサイト: <https://www.ohara-inc.co.jp/>  
E-mail: [info@ohara-inc.co.jp](mailto:info@ohara-inc.co.jp)



環境保全のため、FSC®認証紙と植物油インキを使用して印刷しています。

# オハラレポート 2020

CONTENTS

トップメッセージ	1
特集1/ブランディングプロジェクト	3
特集2/MMB推進プロジェクトからグローバル市場開拓プロジェクトへ	5
オハラグループについて	7
オハラスピリッツ	9
事業紹介/光事業	11
事業紹介/エレクトロニクス事業	13
オハラの考えるCSR	15
誠実な活動	17
社会との調和	19
情報の公開	20
環境の保全	21
社員の尊重	23
連結決算ハイライト	25
会社概要	26

ひかる素材で、未来をひらく





代表取締役 社長執行役員  
齋藤 弘和

● 2019年度の営業状況を振り返って

**光事業・エレクトロニクス事業とも低調に推移**

2019年度は、デジタルカメラ市場の縮小が続く中で光事業の製品需要が減少したことに加え、米中貿易摩擦による影響が露光装置市場にも波及したことなどから、エレクトロニクス事業も低調に推移しました。結果として当期の連結業績は、売上高・利益とも期初の計画値を下回り、大幅な減収・減益となりました。

光事業の営業状況を振り返ると、デジタルカメラ市場は、コンパクトタイプの低迷のみならず、レンズ交換タイプにおいてもミラーレス機の需要が停滞し、市場全体の縮小傾向が一層顕著となりました。そのためオハラグループにおいては、光学プレス品及び光学ブロック品の売上高が減少し、熔解炉の稼働率低下による収益性の悪化を招きました。一方、プロジェクターや監視カメラ、車載カメラなどの高精細・高付加価値ニーズに対応した光学ガラス製品は、お客様から高い評価をいただいているものの、需要が冷え込んだこともあり、デジタルカメラ関連の低迷をカバーするには至りませんでした。

エレクトロニクス事業の営業状況は、露光装置市場において有機ELの需要が低迷し、FPD向けが弱含みで推移したため、極低膨張ガラスセラミックスが伸び悩みました。また、堅調を維持していた半導体向けも、期後半から米中貿易摩擦による影響が拡がり、高均質光学ガラス及び石英の伸びが減速しました。モバイル・モビリティ分野の注力製品である耐衝撃・高硬度ガラスセラミックス「ナノセラム™」は、スマートフォン筐体向けの採用に向けて改良品の投入が求められ、商流の確立に時間を要し、販売計画を大きく下回りました。

● 今後の展望と業績改善への取り組み

**厳しい環境を乗り越えるための四つの施策**

今後は、デジタルカメラ市場の需要減少がさらに加速し、その他の製品分野やFPD・半導体市場でも、米中貿易摩擦による景気減退など、2019年度後半からの環境変化が当面影響を及ぼしていくものと思われます。

しかし、この先数年のオハラグループを取り巻く事業環境においては、5G通信やIoT関連、自動車のEV化・自動運転化などにかかわる成長機会が見込まれ、また国策として半導体・通信・エネルギー分野の強化を図る中国や、産業の活性化が進む東南アジアを舞台に、新たな需要を獲得する可能性が広がっています。こうした展望を踏まえ、私たちは業績の改善とさらなる成長に向けて、以下にご説明する四つの取り組みを推進します。

一つ目は、新たに設置した「グローバル市場開拓推進室」によるマーケティング機能の強化です。エレクトロニクス事業のグローバル展開を加速し、特に今まで光事業を主としていた中国・アジア拠点において事業構造の転換を図ります。この取り組みにより、新規需要を掘り起こしたいと考えています。

二つ目は、光学ガラスの需要縮小に対応した生産体制の再構築です。相模原工場の光事業向け熔解炉を大幅に縮小し、低価格での供給が求められる硝材の製造を台湾・中国拠点に移管することで、コスト競争力を強化しつつ海外工場の稼働率を高めます。相模原工場では、エレクトロニクス事業向けの増産体制及び新熔解炉の開発スペースを確保し、工場の再編を進めていきます。

三つ目は、「ナノセラム™」の改良及び用途拡大への対応です。懸案となっているスマートフォンの筐体向けやその他のモバイル機器について、お客様のニーズに合う改良を迅速に進め、商流の確立と量産規模の需要獲得につなげます。また「ナノセラム™」の用途をスマートフォン・モバイル機器以外にも広げていく考えです。

四つ目は、リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス「LICGC™」によるリチウムイオン電池の進化と次世代電池の実現です。2019年度は「LICGC™」がリチウムイオン電池の性能を高める正極向け添加剤として製品化を果たし、さらにサンプル提供を通じて、韓国・中国のお客様に拡販していく足掛かりを築きました。今後は、電池メーカーでの正式採用の実現を目指し、将来の事業化につなげてまいります。

● 中期経営計画の最終年度を迎えて

**次の15年を見据えた長期ビジョンの足固め**

2020年度は「マテリアル+ソリューションのオハラ」をキーコンセプトとする3ヵ年中期経営計画の最終年度であり、「長期ビジョン2020」を締め括る1年となります。前述の通り、厳しい事業環境が当面続くと見ており、2020年度の業績予想は、減収・減益を想定しています。そのため中期経営計画の目標数値のうち「売上高300億円以上」「営業利益35億円以上」については、遺憾ながら大きく乖離した結果となる見込みです。

この1年は、熔解資源を光事業からシフトしつつ、グローバル市場で着実にエレクトロニクス事業の需要を獲得し、熔解稼働率を確保することが重要となります。こうした取り組みと並行する形で、私たちは2020年10月に迎える創立85周年を機に、次の15年を見据えた「オハラ100年ビジョン（長期ビジョン2035）」への足固めを進めていく方針です。

その皮切りとして、このたび未来の進むべき方向性や

あるべき姿を明確化するコーポレート・メッセージ（次頁に詳細）を定め、ブランドスローガン「ひかる素材で、未来をひらく」を掲げました。私たちは、ここから導かれる成長戦略のもとに、「オハラ100年ビジョン（長期ビジョン2035）」の第1フェーズとなる次期中期経営計画を策定してまいります。

● ステークホルダーの皆様へ

**「オハラが願う未来・社会の姿」の実現へ**

今回の期末配当は、2019年9月11日発表の下方修正の通り、1株当たり15円（前期比15円減配）とさせていただきます。2020年度は減益を想定していますが、安定配当の維持に努めるべく、当期同額の1株当たり15円を予定しています。事業構造改革のピッチを上げて早期の業績改善を果たし、利益還元を拡充してまいります。

なお、前述のコーポレート・メッセージでは、「オハラが願う未来・社会の姿」を示し、企業活動を通じた社会課題解決への貢献について、その重要性をあらためてグループ全員で共有する内容としました。オハラグループのコア技術であるガラスの熔解は、多くのエネルギー消費を要するゆえに、そこから生み出される製品は、エネルギー利用の効率化など、環境負荷の低減に効果をもたらすものであるべきと認識しています。私たちは、熔解工程の革新を推進し、製造工程の高効率化・省資源化を図りながら、世の中の省エネルギー化に寄与するものづくりを追求してまいります。

ステークホルダーの皆様には、オハラグループのさらなる飛躍にご期待いただき、長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。



ブランディングプロジェクトについて

オハラが現在取り組んでいる中期経営計画（2018～2020年度）は、2009年度に策定した「長期ビジョン2020」の最終年度にあたります。このような中、この先オハラの進むべき道や未来のありたい姿を明確化すべく、コーポレート・メッセージの策定を行いました。

コーポレート・メッセージとは、企業のビジョン、使命、強み、行動指針などをまとめた理念体系です。策定に際して

は、創立からの歴史を踏まえ、経営理念まで立ち返ってオハラの「DNA、らしさ」を掘り下げる一方、オハラが創立100周年を迎える2035年、さらにはその先の社会の課題や未来を想定しました。

オハラは、このコーポレート・メッセージに記した1つ1つの言葉とそこに込めた思いをグループ全員で共有し、希望ある未来を創り上げていきます。

経営理念

オハラグループは、常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。

コーポレート・メッセージ

ブランドスローガン

ひかる素材で、未来をひらく

オハラが願う  
未来・社会の姿

安心して快適な生活。  
創造と希望にあふれた社会。  
健やかな地球。

オハラの  
使命

いつの時代も新たな素材の可能性を追求し、  
多様なパートナーとともにかたちにする事で、  
「生活・文化の向上」「フロンティア開拓」「地球環境の改善」に貢献する。

オハラの提供価値

ひかる素材で、お客様の「できる」につなげる。

価値観・姿勢

真摯に向き合う  
妥協なきものづくり  
挑戦のグッドサイクルを回す  
All OHARAでいく  
互いに認め合い、成長しよう

オハラが願う未来・社会の姿

安心して快適な生活。  
創造と希望にあふれた社会。  
健やかな地球。

これらは、オハラがどのように社会とつながり、どういつ未来の社会を願っているのかを表現したものです。素材メーカーとして日常的に取引を行う加工先やお客様とのつながりのみならず、その先にある社会貢献の姿を形にしました。

素材から社会貢献までのつながり、循環を意識して、オハラの価値を確認していくことが、オハラの成長にもつながるという思いから、この項目を設けました。

オハラの使命

いつの時代も新たな素材の可能性を追求し、  
多様なパートナーとともにかたちにする事で、  
「生活・文化の向上」「フロンティア開拓」「地球環境の改善」  
に貢献する。

これは、オハラが果たしていく普遍的な「使命」を明示したものです。

光学ガラス、ガラスセラミックスの生産で培ったコア技術を活用して、もっと広く深い技術を確認し、ガラスやガラスセラミックスという領域も越えて、新たな素材の可能性を追

求していくという意志を示しました。また、素材メーカーはサプライチェーンの川上に位置することから、パートナーの存在が必要不可欠です。オハラは、お客様のニーズに応えるだけでなく、シーズを活用して自ら進化や変化を仕掛け、素材をかたちにしていきます。

オハラの提供価値

ひかる素材で、お客様の「できる」につなげる。

この先、オハラが提供する価値を凝縮して表現しました。「ひかる素材」は、あえて平仮名にしています。「ひかる」は、オハラのルーツである光学ガラスのみならず、キラッと光る、魅力的である、という意味合いも込めています。また、

「お客様の「できる」につなげる。」は、単に製品をお客様に届けるだけではなく、お客様が実現したいことや困っていることも、オハラの技術で「できる」につなげたい、そういった価値を提供していきたいとの思いを表現しました。

価値観・姿勢

真摯に向き合う  
妥協なきものづくり  
挑戦のグッドサイクルを回す  
All OHARAでいく  
互いに認め合い、成長しよう

これらは、オハラが未来へ向けて継承していきたい「オハラらしさ」を表現したものです。オハラは、光学ガラスのパイオニアとして、カメラ、半導体、宇宙・天文など最先端の技術革新に貢献してきました。これらの背景にある「誠実」「正

直」「真面目」「親身」といったキーワードで表現されるオハラのDNAは、これからも大切にしていきたいと考えています。同時に、激しい変化の時代のなかでも、グループ一丸となって挑戦し続け、成長するという志を掲げています。

# MMB推進プロジェクトから 新プロジェクトに再編

～新市場開拓へ向けての組織横断の取り組み～

オハラは祖業である光学ガラスや特殊ガラスの長年にわたる製造経験とカメラ産業を中心に、半導体産業、情報通信産業、宇宙天文分野などに積極的に市場開拓を進めてきました。しかしスマートフォンやフラッシュメモリの普及を背景に多くの技術ニーズが変化してきています。そこで2017年11月に事業組織を横断する市場開拓推進プロジェクト活動に着手しました。当活動では部門間連携及びマーケティング機能の強化を推し進め、MMB (モバイル・モビリティ・バッテリー) の新市場開拓を進めてきました。

## お客様の求める真の価値 (ソリューション) を提案する活動を重視。 材料の価値を目に見える形に!

プロジェクトオーナー 青木 哲也

### ● 組織を超えたMarket Orientedな活動へ

モバイル市場ではスマートフォン端末などのカバーガラス市場、スマートフォンカメラ市場などに使用事例を提案し好評を受けており採用に向けた活動が進展しています。またモビリティ市場では、車載カメラなど広範囲の温度条件下での使用に好適なレンズ素材のリリースを実施したほか、各種車載センサー用カバーガラス材料として高硬度材料の提案や運転支援に貢献するディスプレイ部材などを提案していま

す。さらにリチウムイオン二次電池の性能向上効果が期待できる固体電解質材料を提案しています。

これらの活動は、これまで製品ごとに個別に市場開拓を実施してきましたが、MMBプロジェクト活動を通して、組織横断的に情報を交換し、複数のオハラ素材をMMB各市場へ連携してプロモートする活動に変化させてきました。

### ● 新市場開拓を意識した展示会出展の取り組み

IoT、5G通信、AIなど情報通信速度が飛躍的に伸びてい



2019年10月に開催したCEATEC2019でのオハラブース (MMBプロジェクトでの企画)

く中で、Society5.0及び超スマート社会をキーワードとした展示会CEATEC2019に出展しました。これまでの事業部ごとの展示会ではなく光、エレクトロニクス、バッテリーを包含する共同企画展としました。

「ひかる素材で、未来をひらく」のブランドスローガンのもとでMobility (道)、Farm (農場)、City (街)、Factory (工場) それぞれのフィールドでオハラがいかに貢献しようとしているかをPRいたしました。

4日間の開催期間で多くのお客様がオハラブースに来場され、これまでと異なるお客様層とのコンタクトが形成されました。

今後もその他新しい出展を企画しており、潜在的な市場、お客様との出会いを積極的に模索し、新市場開拓を加速していきます。

### ● よりグローバルな活動への挑戦

MMB市場は欧米諸国や日韓など技術先進国が世界をリードして技術革新と市場形成が進んできました。しかし最近では中国をはじめ、アジア圏の国々の猛烈な追い上げ、技術のキャッチアップが進みつつあります。

これまで小規模と思われていた市場も急速に伸長してきており、未開拓地域へのマーケティング活動も重要性を増してきています。オハラグループの海外展開は光学硝子

事業の伸長とともにグローバル化を進めていましたが、今後は特殊ガラス製品のマーケティング機能も拡充していく必要があります。

### ● 新プロジェクトへの再編とグローバル市場開拓機能の強化

そこでオハラ本社にグローバル市場開拓推進室を設置し国内外の未開拓市場のマーケティングを強化していくことにしました。それと同時に、2017年11月に活動を開始したMMB推進プロジェクトを「グローバル市場開拓プロジェクト」と改称し、グローバル市場開拓推進室メンバーに加えて、国内外の関係会社から新メンバーを募り約20名規模の体制に再編しました。

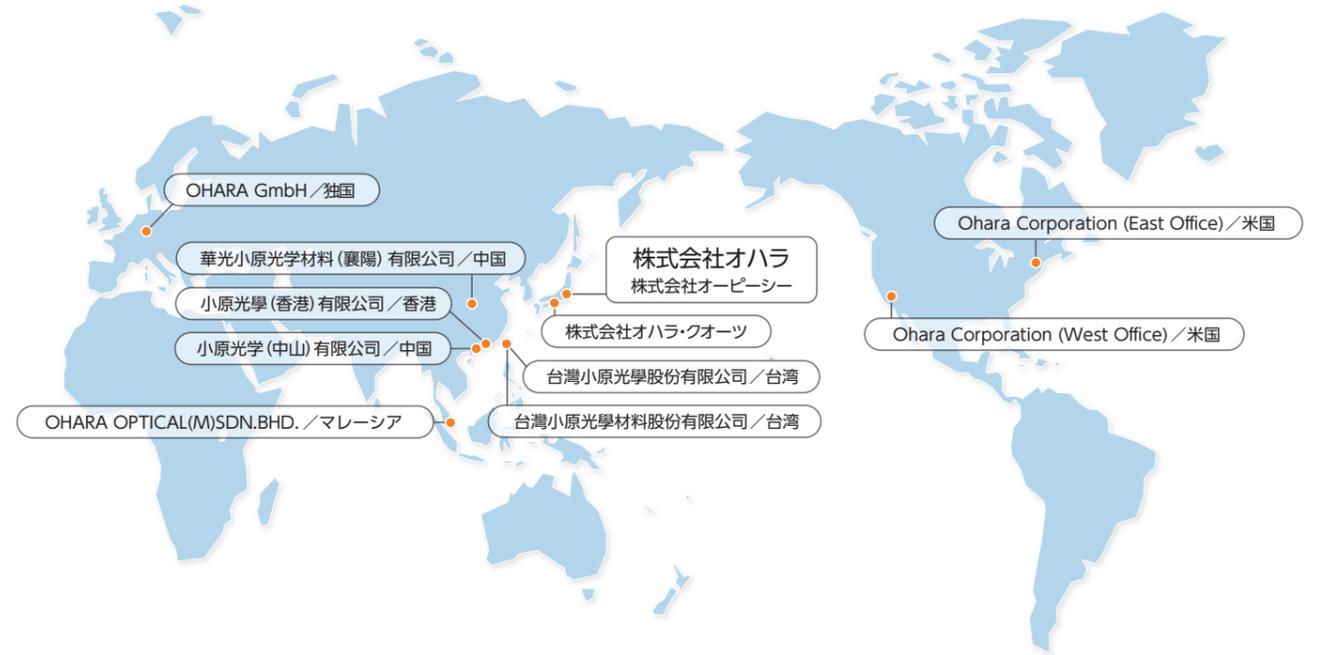
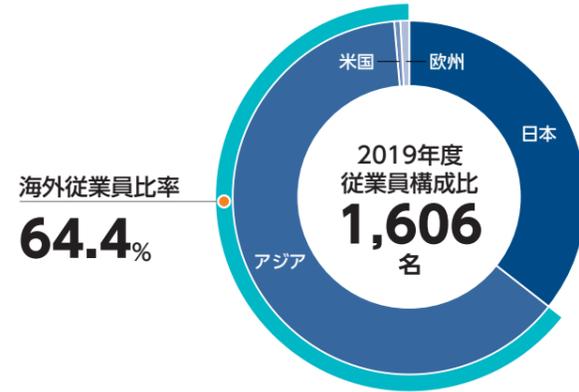
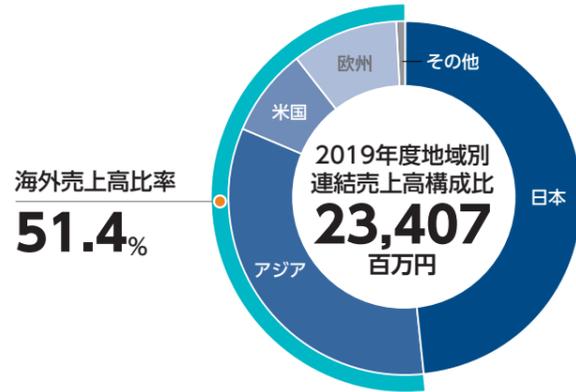
当プロジェクトはMMB推進プロジェクトの活動も継承しつつ、さらに海外で伸長しつつある未開拓市場に的を絞ってこれまで以上にマーケティングを強化していきます。

オハラグループが貢献できる市場は世界中に広がっており、新メンバーの加入で未知のニーズとの出会いはますます加速していくと思われま。新しいニーズに対応していくには、既存の技術シーズだけでは対応できず、新たな技術革新の努力や外部にあるシーズやサプライチェーンとの協力関係も必要になります。そしてまた一歩オハラグループは新しいステップを上り再び成長していきます。

### グローバル市場開拓プロジェクト概略図



オハラグループは、光製品やエレクトロニクス製品分野において、グローバルな事業展開をしています。

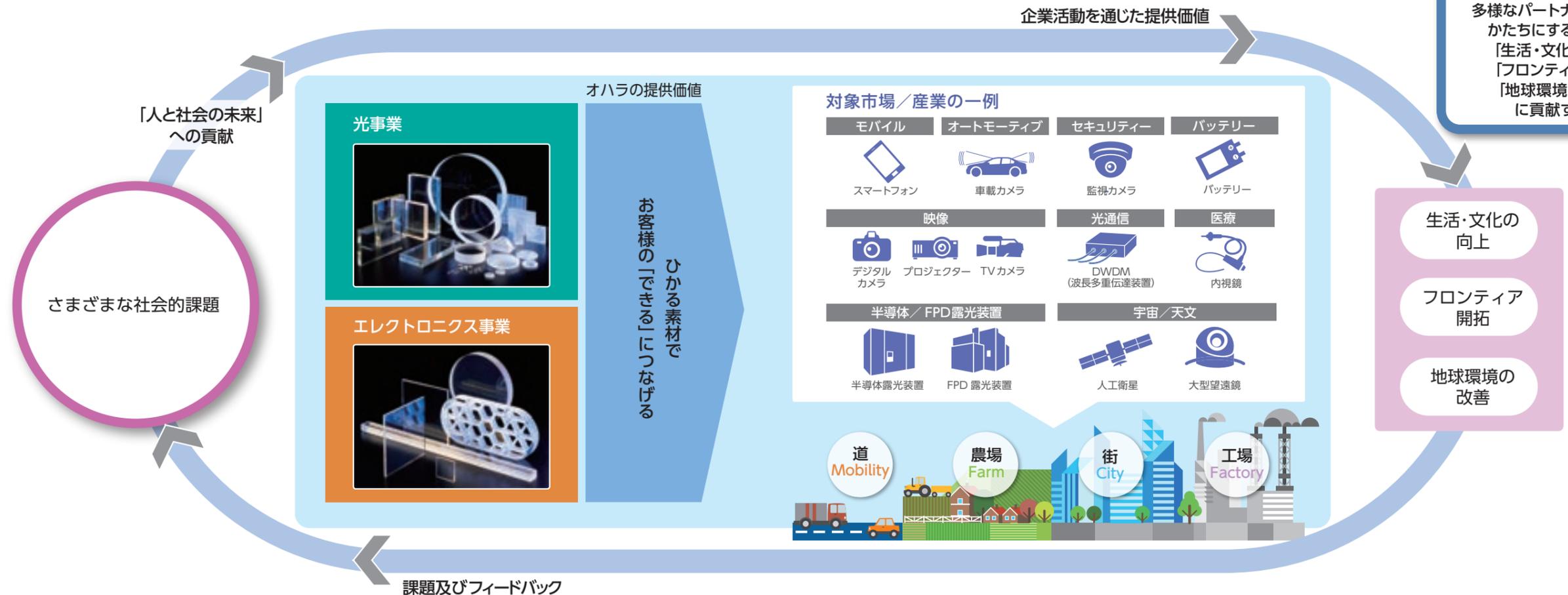


## オハラグループの価値創造プロセス

オハラグループはこれらの事業活動及び製品を通じて、あらゆるステークホルダーに対して企業価値の提供を行っています。また、新たな社会的課題の解決に向けて効率的に投資を行い、次なる価値の提供につなげていきます。

オハラの使命

いつの時代も  
新たな素材の可能性を追求し、  
多様なパートナーとともに  
かたちにすることで、  
「生活・文化の向上」  
「フロンティア開拓」  
「地球環境の改善」  
に貢献する。



オハラグループの事業活動を支える「研究開発」「品質保証」「生産工程」についてご紹介します。

## 研究開発

オハラは新たな素材の可能性を追求し、光、電子（エレクトロニクス）などの物性を自由にコントロールできる先進素材の提供に向け、挑戦しています。

オハラは1935年の創業以来、光学ガラス専門メーカーとして、日本の光学産業界の発展に寄与してきました。

そして1985年、創立50周年を機に、高度情報化社会の多様化に対応した提案型素材メーカーへと脱皮してきました。

新たに「モバイル・モビリティ市場」を重点対象と位置付け、単なる先進素材の開発だけではなく、テクニカルデータなどのソリューション提供やサプライチェーンの構築などを通じて、お客様と対話しながら研究開発活動を続けてきました。車載カメラ用のレンズ素材など、徐々に成果も出始めており、今後も顧客密着型の開発活動を継続し、新たな試みを躊躇せず、ひかる素材を具現化し、一人の「やりたい」をみんなの「できる」に変えていきます。



ドレーンキャスト  
※熔解したガラスを直接型に流し入れる



ナノセラム™330品

### Staff's Voice

極低膨張ガラスセラミックやナノセラム™に代表される結晶化ガラスは、想定される顧客や求められる性能が光学ガラスとは大きく異なる場合が多く、それまでのオハラの常識が通用しないことも度々あります。そのため単に組成を検討するだけではなく、営業部門や生産管理部門などと連携しながら、時には新しい工程や評価方法の導入も行い、本当に必要とされる材料が提供できるよう日々試行錯誤しています。



特殊品事業部 特殊品技術部  
小田 望

## 品質保証

オハラは「最高品質へのこだわり」という遺伝子を持ち続け、お客様に満足していただける製品・サービスを提供し、世界に誇る新たな材料を開発、製造する技術につなげています。

オハラ品質方針では、お客様からの一層の信頼と満足の向上を常に心掛け、まず第一にお客様からの要求を十分に理解することを明言しています。お客様によって品質が定められる「お客様第一の考え」をオハラ品質保証の根源とし、多様なパートナーとともにかたちをすることでお客様の「できる」につなげます。

また、ISO9001：2015年度版国際規格を第三者認証機関の審査により更新しています。オハラは品質マネジメントシステムを企業戦略の方向性に合致させ、品質に及ぼすリスク・課題を明確にし、お客様に信頼される製品・サービスを提供しています。また、オハラでは培ってきた素材の評価技術によって、新たなお客様の製品の高精度品質保証方法を提案してまいります。

自信を持って最高品質をお客様の元へ提供しています。

### 品質目標

- 「[マテリアル] + [ソリューション]」の提供による戦略目標の達成
- コスト削減目標の達成
- ブランディングの強化
- ステークホルダーからのクレーム削減
- 顧客満足度の向上
- 業務品質の向上



ISO9001審査

### Staff's Voice

品質保証部門の使命はお客様にオハラの製品が世界随一の品質を持っていることを証明することです。また、品質の維持、向上のため、製造ラインの品質データをフィードバックすることも重要です。私の任務は測定装置を常に良好に維持・管理していくことです。今後は新たな測定・品質保証ニーズに対応していくため、自身の仕事の品質を向上させていくことがお客様の信頼につながることでありと認識し、努力していきたいと考えています。



事業支援センター 品質保証部  
川中 裕次

## 生産工程

オハラは市場のニーズを先取りし、お客様の求める品質・価格で製品を提供できるよう、日々技術や効率の向上を追求しながら、生産活動を行っています。

オハラは80年以上の歴史で培った技術の積み重ねにより、より優れた特性のガラスを生産することを可能としています。この技術力をベースに、市場ニーズの著しい変化に対応していくため、継続的に熔解技術の革新活動に取り組んでいます。QCDE（品質・コスト・納期・環境）のすべてにおいて、お客様のニーズに応えるべく、製造部門一丸となって、常に安定した製品を供給していきます。



ストリップ  
(右図 ※1)



材料検査  
(右図 ※2)

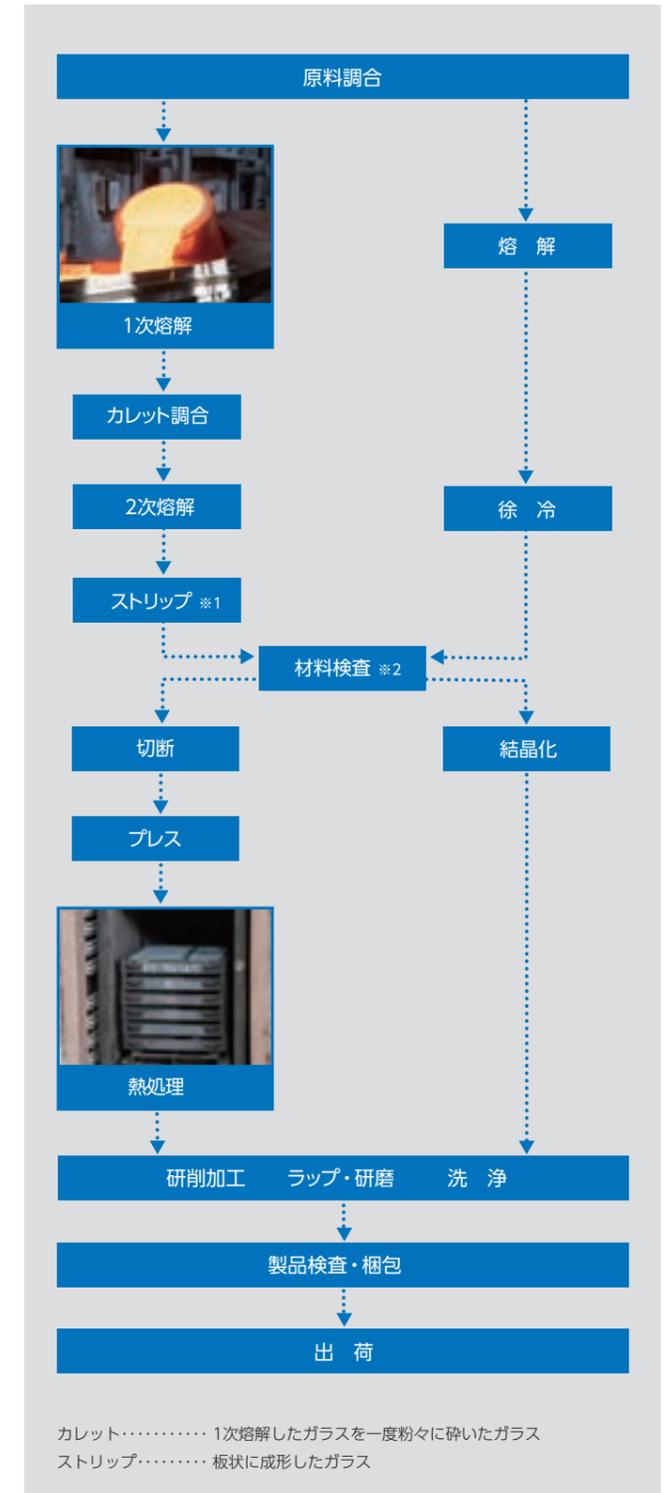
### Staff's Voice

製造部門の使命は、お客様が希望される品質スペックを満たせる製品供給を常に考え、生産することです。日々関係部門と連携しながら、高品質を目指して生産に取り組んでいます。また、生産の中で培う経験と、品質を「自らの目」で確認することで、課題解決、技術改善や向上につなげ、さらなる品質の向上を目指しています。



材料生産センター製造部  
加治屋 淳

### 製造方式・工程



オハラグループの光事業をご紹介します。

## 光事業

### 営業品目

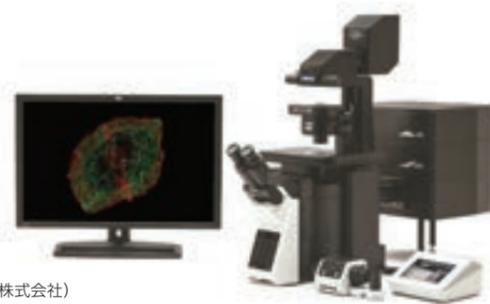
- 研磨レンズ用光学ガラス
- 非球面ガラスモールド用光学ガラス (低Tg光学ガラス)

光学ガラスは、デジタル一眼レフカメラ・プロジェクター・TVカメラ・車載カメラ・監視カメラ・医療機器など様々な光学機器に使用されています。オハラでは光学機器の高性能化、小型化、低コスト化を実現する特徴ある光学ガラスを150種類以上ラインナップし、あらゆる光学設計のニーズに対応しています。

オハラが提供する最高品質の先進ガラス素材は、世界中の人々の笑顔や感動をサポートしています。



ミラーレスカメラ EOS R向け交換レンズ  
(提供: キヤノン株式会社)



顕微鏡  
(提供: オリンパス株式会社)

### 光学ガラス製品

光学機器の光学系は、光の屈折率や透過率に特徴を有した複数種類の光学ガラスを用いて、球面レンズ・非球面レンズ・プリズム・フィルターなどの光学部品を組み合わせ構成されています。

オハラは様々な光学機器の光学設計に対応するため、150種類以上の光学ガラスを取り揃えており、光学機器の高性能化、小型化、軽量化、低コスト化などの多種多様な光学設計のニーズにお応えしています。また、お客様のご要望に沿って、レンズ加工に適した形状の光学ガラス、レンズ加工を施した製品など、ガラス素材から光学部品まで、様々な製品形態でお客様に光学ガラス製品を提供しています。

### 製品供給形態

#### リヒートプレス品

球面研磨レンズやプリズム加工に適した形状に熱間プレス成形された製品



#### 球面レンズ

両面球面研磨加工・芯取加工・コート加工を施したレンズ

#### 研磨プリフォーム

非球面ガラスモールドレンズ加工に適した形状に球面研磨された製品



#### 非球面ガラスモールドレンズ

研磨プリフォームを高温に加熱・軟化させ、超高精度非球面金型で形状を転写させ、芯取加工・コート加工を施したレンズ

トピックス  
1

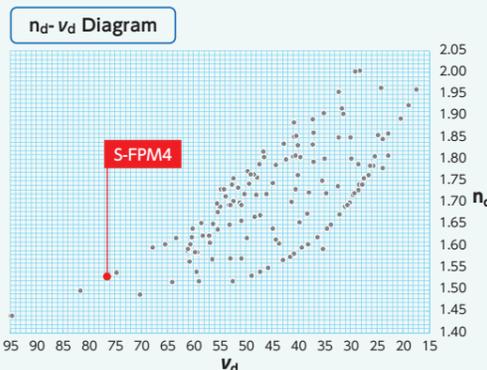
## モバイル、モビリティ分野への貢献を目指して 光学ガラスのラインナップを拡充

### モバイル・モビリティ用途にも好適

高度な色収差補正を実現する異常分散性硝材 S-FPM4をリリース

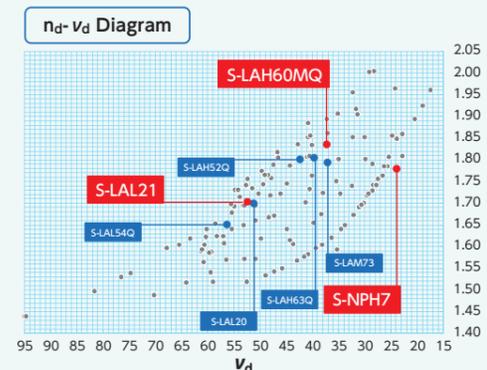
オハラ独自の技術力により、高度な色収差補正を実現する異常分散性硝材としてS-FPM4をリリースしました。人間の目は、おおよそ400nm (青色) ~ 700nm (赤色) の領域の光を感じることができますが、カメラなどに装備される撮像素子もレンズを通してこの領域の光を受光します。光がレンズを通過する時に波長 (色) によってにじみが生じる現象を色収差と呼ばれますが、異常分散性硝材であるS-FPM4を使用することで、この色収差を効果的に除去することが可能となります。

S-FPM4は、一眼レフカメラなどの従来からある用途にはもちろんですが、我々がターゲットにしているスマートフォンなどのモバイル用途や車載用カメラなどのモビリティ用途においても有効な硝材となります。



### 車載カメラレンズ用光学ガラスの ラインナップ拡充

世界初の車載カメラレンズ用の光学ガラスは好評をいただいておりますが、お客様のニーズに合わせる形でさらにラインナップを拡充いたしました。2018年当時の5硝種に加えて新たに3硝種を追加し、車載カメラ用に専用設計した光学ガラスとして合計8種類の製品をリリースしています (2019年11月19日現在)。これらの光学ガラスは機械的、熱的な耐久性を向上させることに特化した製品、また、温度変化による屈折率変動 (温度ドリフト) を考慮した製品となりますが、車載レンズ用途だけでなく、プロジェクター製品やデジタルカメラなどあらゆる光学製品にもご利用いただけます。



### Staff's Voice

ガラス材料の開発は一般に考えるよりも期間を要することが多く、年単位の開発期間もあります。この開発では、初めの段階で極めて短期間での開発期間を設定されたので、不安に思いながらもチャレンジした開発テーマでした。開発過程では、海外拠点の協力も得て、期間内に完了させることができ、達成感を味わうことができました。この開発に関わった皆さんに感謝しています。



光製品事業部 光製品開発部  
小栗 史裕

### Staff's Voice

お客様からの声を反映したガラス材料を開発し、それを新製品としてお客様にお届けした時に、「今すぐにも使いたい!」「今までできなかった設計ができるようになる!」「これ、いいね!」と明るい顔で反応があった時には、それまでの苦労が報われた感じがしました。お客様とオハラの開発の橋渡し役として、頑張っていきます。



光製品事業部 光製品営業部  
二野宮 晟大

オハラグループのエレクトロニクス事業をご紹介します。

## エレクトロニクス事業

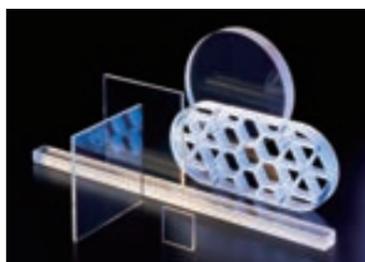
### 営業品目

- 極低膨張ガラスセラミックス (クリアセラム™-Z)
- 耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス (ナノセラム™)
- DWDM誘電体多層膜 フィルター用ガラスセラミックス サブストレート (WMS™-15)
- リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス (LICGC™)
- 高透過率ファイバー用ガラス
- i 線用高均質性光学ガラス
- 合成石英ガラス (株式会社オハラ・クオーツ)
- 超精密平面研磨加工 (株式会社オーピーシー)
- 装飾用ガラス

光学ガラスで培った技術を基に開発された特殊ガラスは、宇宙、半導体/FPD露光装置、光通信、計測、環境・エネルギーなど様々な市場分野に応用展開しています。

今後も最先端分野へ採用される新たな製品の開発、品質向上を目指していきます。

### 極低膨張ガラスセラミックス (クリアセラム™-Z)



長年培った高均質熔解技術とナノ結晶化技術により生み出されたゼロ膨張のガラスセラミックス

### リチウムイオン伝導性ガラスセラミックス (LICGC™)



酸化物系固体電解質でトップクラスのイオン伝導性をもち、高い化学的安定性及び耐水性をもつガラスセラミックス

### 耐衝撃・高硬度クリアガラスセラミックス (ナノセラム™)



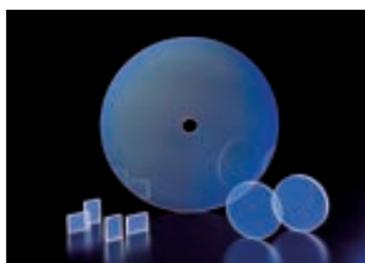
オハラのナノ結晶化技術をさらに進化させ、優れた耐衝撃性と透過率をもち合わせたガラスセラミックス

### i 線用高均質性光学ガラス



内部透過率及び光学的均質性が特に優れた光学ガラス

### DWDM誘電体多層膜フィルター用ガラスセラミックスサブストレート (WMS™-15)



多層膜フィルター向けに最適な熱膨張係数と高ヤング率特性をもち合わせたガラスセラミックス

### 合成石英ガラス



光ファイバーの製造技術から生まれた、深紫外から遠赤外まで優れた特性を発揮する高純度・高品質な合成石英

## トピックス 2

## Society 5.0へ マテリアル+ソリューションを提供

### 次代の新しい世界を支える ガラスセラミックス基板

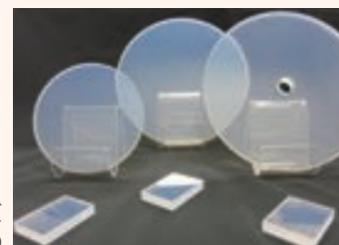
WMS™-15は通信ネットワークの大容量化において重要な役割を担う光分配・統合に必要なフィルター(多層膜フィルター)に適したガラスセラミックスです。

このフィルターは製造時に特殊な膜を基板に張るのですが、基板材料には膜にあった熱膨張特性や高い強度が求められます。同製品はオンリーワンの優れた特性を持ち、多層膜フィルター用の基板材料として国内外多くのお客様から高い評価を受けています。

現在、あらゆる分野でSociety5.0(超スマート社会)が提唱されています。目指す未来像としてAIやロボット、ドローン、VR、AR、IoT、ファクトリーオートメーション、自動運転など新たなデバイス技術、ネットワーク技術を駆使した社会が描かれています。この未来像を実現するためには次世代通信システム「5G」が欠かせません。現状通信システムである4Gから5Gへの進化に対応するために、通信インフラの強化が急務となります。

WMS™-15は通信インフラの一部として活躍し、これからもネットワーク社会を支えていきます。

ガラスセラミックス  
サブストレート  
(WMS™-15)



### Staff's Voice

普段生活するなかでWMS™-15自体を目にすることはありませんが、光通信を陰で支えて日々の生活を便利にし、世の中に貢献しています。今後、本格的に普及が始まる「5G」においてもこれまで以上に便利な生活を担うキーマテリアルであることに自負を持って、仕事に取り組むことができていることを嬉しく思っています。



特殊品事業部 特殊品BU  
森田 明宏

### 酸化物系固体電解質でトップクラスの イオン伝導性をもち、高い化学的安定性及び耐水性をもつガラスセラミックス

リチウムイオン電池は、2019年ノーベル化学賞に選ばれた技術開発の功績により、今日私たちが使用するスマートフォンなどの電子機器の利便性が向上し、最近では実用的なEVの主電源としての採用が進んでいます。EVに搭載されるまでの技術発展には、電気を蓄えるための電極の改良や電池そのものの安全性の改良が進められてきており、現在もその活動は活発に行われています。一方で、原理的な観点からは、改良の限界も明らかになってきており、新しい素材によるブレークスルーが求められています。LICGC™は、ガラスセラミックス技術を用いた固体電解質材料であり、高いイオン伝導性や不燃性で高い安全性を持っています。LICGC™の応用により、既存のリチウムイオン電池が、よりパワフルで長持ちする電池に変わる効果があります。また、次世代電池として期待される全固体電池や空気電池の固体電解質として、多くの企業や研究機関が応用を進めています。

LICGC™粉末材



### Staff's Voice

私は、LICGC™製品の検査を任されていますが、高品質な製品であるため、様々な検査項目があります。まだ慣れていない検査は先輩に教えてもらいながら、毎日緊張しながら検査と出荷作業を行っています。今後も、オハラの製品を使っていただき、お客様に喜んでもらえるように、さらにスキルアップを目指し、安心して安全な社会に少しでも貢献できるように頑張ります。



特殊品事業部 特殊品BU  
岩田 玲奈

オハラグループは、「企業の社会的責任」を果たすために、  
企業活動の展開にあたっては、社会的良識をもって行動します。

## SDGsへの取り組み

オハラグループは、コーポレートガバナンス（企業統治）の強化を図り、企業として社会に貢献できるよう努めるとともに、国際連合で採択されたSDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献すべく取り組んでいきます。

- オハラグループのコア技術である熔解は、多くの熱エネルギーを使用し、労働環境の面でも従来から課題意識がありました。ものづくりを通じて、製造効率の向上による環境負荷低減を進めるとともに、安全・安心な労働環境の整備と労働生産性の向上を図っていきます。
- 創業以来、研究開発を重視するビジネスモデルを通じて、イノベーションの促進に寄与する新規素材の開発を推進していきます。
- 新規事業として取り組んでいますリチウムイオン伝導性ガラスセラミックス（LICGC™）の拡販を通じて、リチウムイオン電池の進化と次世代電池の実現への貢献を目指していきます。

## SDGsとは

2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals）」となります。

SDGsは、先進国・途上国すべての国を対象に、経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会を2030年までに目指す世界共通の目標として、17のゴールとその課題ごとに設定された169のターゲットから構成されています。



オハラの考えるCSR

||

「企業倫理の基本理念」の実現



経営理念

コーポレート・メッセージ



誠実な活動  
Sincere Activities

詳細はP17に

社会との調和  
Harmony with Society

詳細はP19に

情報の公開  
Disclosure of Information

詳細はP20に

企業倫理の基本理念

環境の保全  
Environmental Protection

詳細はP21に

社員の尊重  
Employee Respect

詳細はP23に

私たちは、社会に役立つ製品・サービスを開発・提供し、お客様の満足と信頼を獲得できるよう努めます。このために、事業を行う国や地域の法律やルールを遵守するとともに、その国や地域の文化や慣習を尊重し、公正・透明・自由な競争および適正な取引を通じて、誠実な企業活動を行います。

コーポレートガバナンスの基本的な考え方

オハラは、「常に個性的な新しい価値を創造して、強い企業を構築し、オハラグループ全員の幸福と社会の繁栄に貢献します。」を経営理念として定め、これに基づいて事業活動を行っています。

オハラは、この経営理念を実現するため、社内組織体制や経営管理上の仕組みを整備し、必要な施策を実施しています。また、株主、顧客、社員、地域社会などの様々なステークホルダーの皆様に対して、社会の公器としての責任を果たすことが、結果として、企業価値の最大化につながるということを強く認識し、企業倫理に則して透明性及び健全性が確保された経営を行うことが、オハラの考えるコーポレートガバナンスであります。

コーポレートガバナンスの充実に向けた取り組み

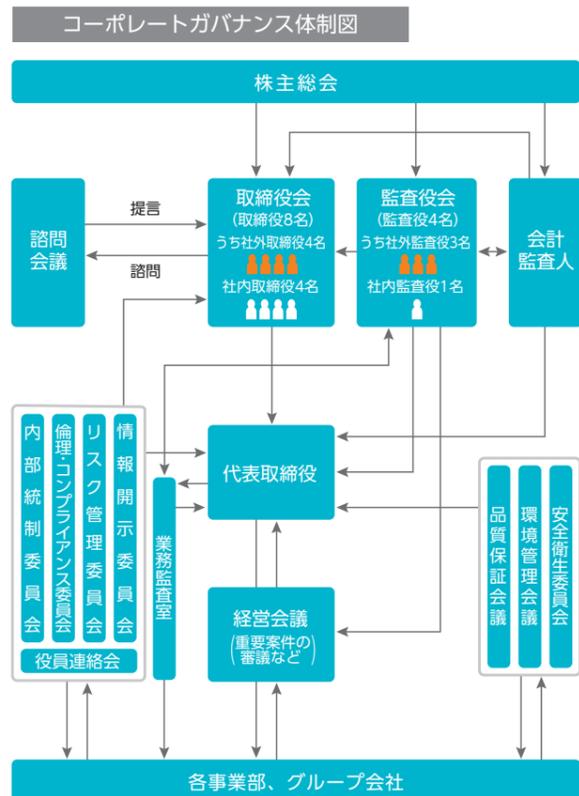
コーポレートガバナンスに関する基本方針

オハラは、コーポレートガバナンス・コードの趣旨・精神を踏まえたうえで、オハラグループの持続的な成長及び企業価値の向上のために、最良のコーポレートガバナンスの追求及びその充実を図ることを目的として、「コーポレートガバナンスに関する基本方針」を制定しています。

※「コーポレートガバナンスに関する基本方針」については、ウェブサイトをご参照ください。

コーポレートガバナンス体制

オハラは、迅速な経営判断及び業務執行並びに監督機能の強化を図るための組織体制を整備しています。



取締役会の実効性に関する分析・評価

オハラは、コーポレートガバナンスに関する基本方針において、「取締役会は、毎年、取締役会全体の実効性について分析・評価を行い、その結果の概要を開示する。」としており、これに基づく全役員に対するアンケート調査及びその分析・評価を行いました。評価結果では、2018年度に課題として認識した「議題の十分な審議」及び「社外役員と内部監査部門のコミュニケーション」について一定の改善がなされたことを確認しました。一方で、「取締役会の審議時間」については改善の余地があることが認められました。また、新たに取締役会メンバーのトレーニングの機会について工夫の必要性があることを認識しました。これらの評価結果を踏まえ、今後も課題解決に取り組むとともにコーポレートガバナンス体制の一層の強化に努めています。

※「取締役会の実効性に関する分析・評価の概要」については、ウェブサイトをご参照ください。

最高経営責任者(代表取締役)などの後継者育成について

オハラは、最高経営責任者のみならず経営上重要なポストを担うリーダーの育成を進めています。2019年度は、次世代経営者層のみならず、その次の世代を担う人材を対象として、外部機関による研修を行いました。また、社内における多様性の確保のため、女性活躍推進研修を行いました。



- <オハラ経営人材の要件>
- 1 事業運営・拠点経営の経験、若しくは戦略企画などの全社的視点での業務経験
  - 2 経営者としての覚悟・胆力…企業価値向上に向けて、リスクをとり、果敢に決断し、実行する力
  - 3 変革力…業界や組織の常識・過去の慣習に縛られない視座を持ち、組織を鼓舞し、あるべき姿の実現に向けて、組織を変えていく力

倫理・コンプライアンス強化に向けた取り組み

コンプライアンス推進体制

企業倫理の基本理念に則った「行動指針」を定めており、「倫理・コンプライアンス委員会」ではこの行動指針に従い、役員をはじめ社員全員が法令を遵守するだけでなく、高い倫理観を持って公正かつ適正な事業活動を遂行するよう、各種社内セミナーを継続的に実施しています。

社内輸出管理教育

オハラでは、安全保障貿易管理に関する法令知識及び社内手続きの理解を深めるため、定期的に社内研修を行っています。



輸出管理セミナー

全社員向けコンプライアンス研修

オハラで働くすべての人を対象に、定期的にコンプライアンス研修を行っています。

2019年度は、内部通報制度の意義及びその適正な運用について、顧問弁護士による研修を行いました。



全社員向けコンプライアンス研修

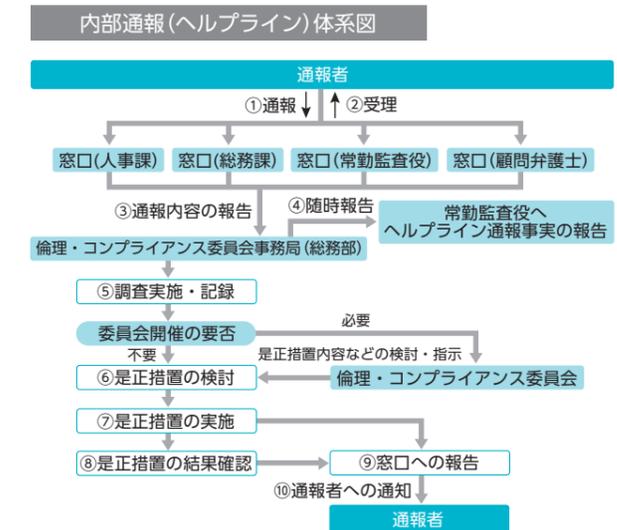
行動規範「ガイドライン」

企業倫理の基本理念及び行動指針に基づき、事業活動において遵守すべき法令などの主要項目、対応方針及び注意事項などを具体的に明記したものを行動規範「ガイドライン」として定め、全社員向けコンプライアンス研修や社内イントラネットなどを活用した啓発活動を行っています。

人権に対する取り組み

内部通報(ヘルプライン)制度

相談者(通報者)が直接「倫理・コンプライアンス委員会」に相談(通報)するための内部通報(ヘルプライン)制度を設けています。2019年度は内部通報制度の適正な運用を図るため、「内部通報(ヘルプライン)運用ガイドライン」を作成し、周知しました。



2019年度活動レビュー

誠実な活動

オハラグループの持続的な成長及び企業価値の向上に向けた施策として、後継者育成計画を進め、次世代、次々世代の後継者育成の施策に取り組みました。また、社内における多様性の確保を推進するため、女性の活躍を促進する活動を行いました。倫理・コンプライアンス強化に向けた取り組みでは、社内研修を継続実施するとともに、内部通報制度の適正な運用を図るための活動を実施しました。

自己評価 … ★★★★★

目標達成度: ★★★★★=100~85% ★★★★★=84~70% ★=69%以下

2020年度の課題

オハラグループの持続的な成長及びさらなる企業価値の向上に向け、コーポレートガバナンス体制の実質をより充実させていかなければなりません。そのため、コーポレートガバナンスの根幹をなす取締役会においては、メンバーのトレーニングの機会の提供についてより実効性のあるものにしていく必要があると考えています。

私たちは、地域社会や国際社会との調和を忘れず、節度ある企業活動を心がけ、「良き企業市民」として積極的に社会貢献活動を行います。

社会貢献活動

工場見学・職場体験の受け入れ

地域社会貢献活動の一環として、近隣の学校から工場見学などを受け入れています。

2019年度は小学3年生104名が工場見学に訪れ、普段見る機会がないガラスの製造工程に目を輝かせ、ガラスへの興味を膨らませていました。

また、中学2年生3名が職場体験に訪れ、働く事の責任などを学び、今後の人生に役立てたいとの感想がよせられました。



小学生工場見学 職場体験

朝の清掃活動

清掃活動は月に2回会社周辺を中心に継続して実施してきた結果、この活動も15年が経過しました。

今後もこのような活動を通じて、地域の方々が気持ちよく暮らせる街づくりに貢献していきたいと考えています。



朝の清掃活動

相模川クリーン作戦への参加

オハラ本社がある相模原市には山中湖を水源とする相模川が流れています。

豊かな自然が広がる環境を守るため、相模川を愛する会が主催する「相模川クリーン作戦」に、オハラ社員やその家族も参加し、毎年恒例行事として取り組んでいます。オハラは貴重な自然を未来へつなげる環境保全活動をこれからも続けていきます。



参加した社員とその家族

相模原市中央区ぶらさんぽに協力

相模原市が主催し、地域活動の担い手を増やす取り組みとして、「中央区ぶらさんぽ」が開催されました。オハラはスタンプラリーの拠点のひとつとして一部の場所の提供を行い、活動に協力しました。当日は、お子さまから高齢の方まで、幅広い年齢層の方が足を運ばれていました。



中央区ぶらさんぽに参加した地域の子供たち

2019年度活動レビュー

社会との調和

社員に対する継続的な啓蒙活動の実施や地域社会とのつながりを大切に、積極的に地域貢献活動へ参加しました。

自己評価 … ★★★★★

目標達成度：★★★★=100~85% ★★★=84~70% ★=69%以下

2020年度の課題

今後も地域社会の一員として、社員の意識改革に取り組む活動を継続しながら、地域との交流や社会貢献に努めていきます。

私たちは、企業活動に対する社会からの正しい理解と支持を得るため、企業情報を適時・適切に開示し、誠実で、透明性の高いコミュニケーションに努めます。

ステークホルダーとのコミュニケーション

株主・投資家の皆様とのコミュニケーション

毎年1月下旬に開催している定時株主総会では、株主の皆様におハラの戦略を分かりやすくお伝えするよう努めているほか、年1回統合報告書「オハラレポート」をお送りしています。

また、機関投資家、証券アナリストの皆様を対象に、決算説明会を年2回、テレフォンカンファレンスを年2回開催するとともに、IR担当部門にて随時個別取材に対応しています。



決算説明会

個人投資家の皆様とのコミュニケーション

ウェブサイトにおいて、決算短信などの適時開示資料をはじめ、株主総会招集通知や決算説明会の資料といった各種資料を開示しています。また、証券会社での個人投資家向け説明会も行いました。なお、これら説明会などでいただいたご意見は、速やかに経営陣と情報共有を行い、企業活動の参考としています。



個人投資家向け説明会

年間IRカレンダー

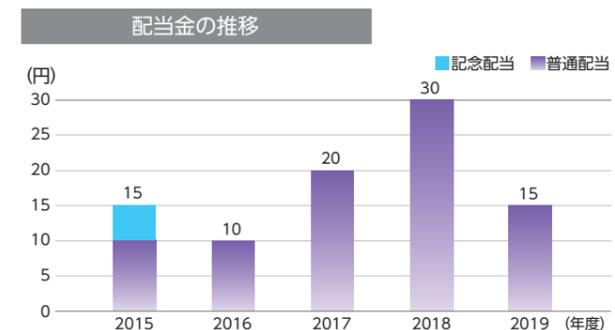


IR活動実績

2018年12月13日 木曜日	2018年10月期 決算発表・決算説明会
2019年1月30日 水曜日	第110期定時株主総会
2019年3月12日 火曜日	2019年10月期 第1四半期決算発表・テレフォンカンファレンス
2019年6月14日 金曜日	2019年10月期 第2四半期決算発表・決算説明会
2019年9月11日 水曜日	2019年10月期 第3四半期決算発表・テレフォンカンファレンス

配当政策

オハラは、経営基盤の強化と今後の事業拡大のため、必要な内部留保を充実しつつ、株主各位に対する安定かつ継続的な利益還元を期末配当にて実施していくことを基本方針としています。



2019年度活動レビュー

情報の公開

2019年度は、デジタルカメラ市場の落ち込みやナノセラム™需要の大幅な変動を背景に、業績予想の下方修正を複数回行いました。このような中、決算説明資料ではその背景を詳しく記載する一方、宇宙・天文向け用途への取り組みなど、今後の伸びが期待できる分野をご紹介しました。また、ウェブサイトでは、リニューアルに伴い、個人投資家の皆様向けのページを新設しました。

自己評価 … ★★★★★

目標達成度：★★★★=100~85% ★★★=84~70% ★=69%以下

2020年度の課題

2020年度は、2009年度に策定した「長期ビジョン2020」に基づく、中期経営計画フェーズⅣ（2018年度～2020年度）の最終年度となります。2020年度の売上高及び営業利益は残念ながら目標数値に達しない見込みですが、2020年以降の飛躍に向けた種蒔きは着実に進んでいますので、この点を丁寧に説明していきたいと考えています。

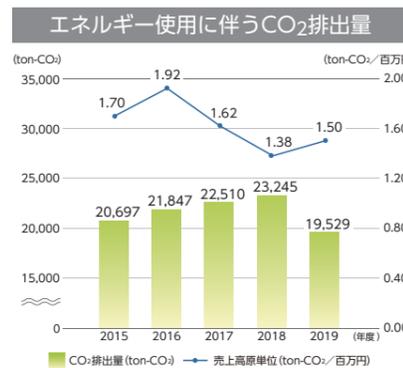
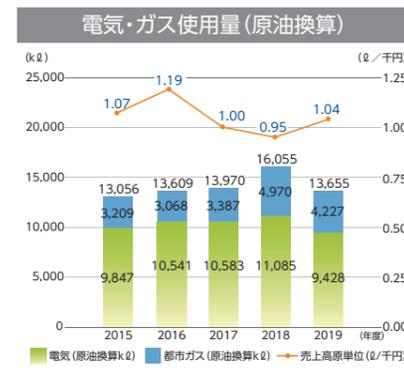
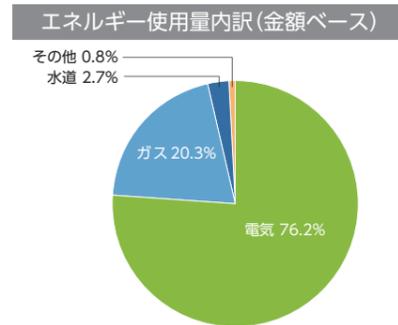
私たちは、かけがえのない地球を大切に、企業活動のすべての局面で、環境保全活動に自主的・積極的に取り組みます。

環境マネジメント

オハラは企業活動と地球環境との調和を目指し、環境理念と方針を掲げ、様々な取り組みを推進しています。

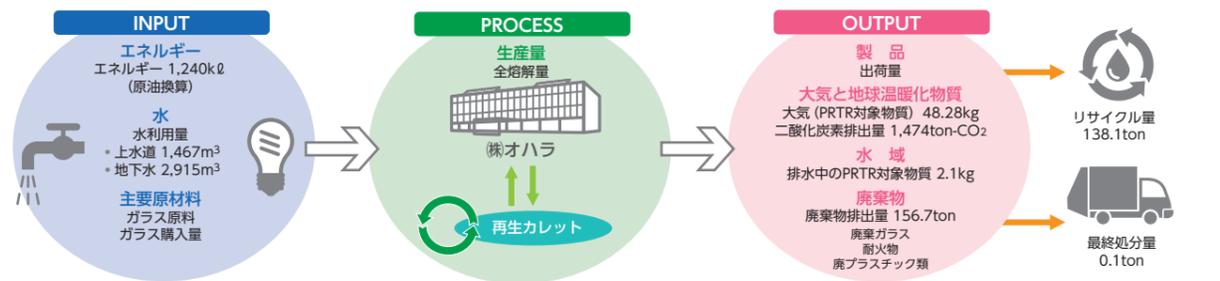
省エネルギー・省資源への取り組み

ガラス製造には多くの資源（電気・都市ガス）の消費を必要とします。限りある資源の消費を最小限度に抑制すべく、以前より省エネタイプの設備への切替えや効率的な生産の推進に取り組んできました。今後も省エネルギー・省資源へ向けた様々な活動を推進し、エネルギー使用量の抑制につなげていきます。



マテリアルバランス

オハラは事業活動におけるエネルギーや資源の投入 (INPUT) と、その活動に伴って発生した製品や環境負荷物質 (OUTPUT) を定量的に把握し、環境保全活動に展開しています。



ISO14001:2015年版認証取得

2019年6月にオハラで働くすべての人を対象として環境教育を実施しました。外部の専門家を招き最近の環境法令の動向や化学物質管理の重要性など環境に関する関心を高める機会となりました。



ISO14001全社教育

内部環境監査員の教育

適正なEMS運営のため社員の中から内部環境監査員を選任しています。

選任時にはISO14001要求事項に関する教育に加え、環境関連法規や環境問題に関する知見を深め、被監査部署の環境保全活動がより良いものとなるような内部監査につなげるよう教育を図っています。



内部環境監査員教育

環境の保全

2015年度版への移行後、全社教育などを通じて、社員の理解も広がり、適切なEMS (Environmental, Management, System) 運営を行うことができました。また従前より継続して取り組んでいるリサイクルセンターにおける廃棄物分別も確実な分別へつなげるために掲示の強化などに継続して取り組んでいます。今後も皆様からのご期待に沿えるよう、環境マネジメントシステムを運用していきます。



ゴミ分別MAP

2019年度活動レビュー

2020年度の課題

廃棄物の削減・再利用

在庫調整などによる生産量の減少が大きく影響し、廃棄ガラス原単位が悪化してしまいました。しかしながら、ガラス再利用などの推進により悪化の進捗を抑制できたと考えています。

目標達成度 ★

廃棄ガラス原単位1%削減 (2019年度比) を目標に活動を進めます。また、海外を含めたグループ会社一丸となって削減を目指していきます。

省エネルギー

在庫調整などによる生産量の減少が大きく影響し、省エネルギー原単位が悪化してしまいました。しかしながら、生産管理部門と現場の密なコミュニケーションにより効率的な生産につながり悪化の進捗を抑制できたと考えています。

目標達成度 ★

エネルギー原単位1%削減 (2019年度比) を目標に活動を進めます。また、海外を含めたグループ会社一丸となって削減を目指していきます。

地域社会の環境調和

社内外の美化促進活動として、会社外周清掃を19回実施しました。

目標達成度 ★★★

全社に呼びかけ会社外周清掃を引き続き実施していきます。

ノーカーデー運動を推進し二酸化炭素排出量を年間18.3ton削減しました。

目標達成度 ★★★

ノーカーデー運動を継続実施し、二酸化炭素排出量を年間15ton削減します。

地球環境改善への貢献

環境負荷の少ない製品開発をするため、提案型営業を推進し、顧客訪問展示会や技術交流会で得た情報を社内にフィードバックしました。また、環境・エネルギー分野の拡販活動として展示会など積極的に参加しました。

目標達成度 ★★★

環境負荷低減に関するお客様からのニーズを社内へフィードバックしていきます。

法令遵守

「環境体制調査表」を見直し、取引先環境体制調査を実施しました。

目標達成度 ★★★

取引先管理の強化を引き続き実施します。

目標達成度: ★★★=100~85% ★★=84~70% ★=69%以下

私たちは、社員の人権・人格を尊重し、企業倫理の精神を育むとともに、安全で働きやすい労働環境を確保し、自由闊達な企業風土を作ります。

女性活躍推進研修

女性の活躍を推進するため、育成とともに社内環境の整備を強化しています。企業の持続的な成長には、女性の活躍が必要不可欠であると考えています。そこで選抜による対象者には自身のキャリアビジョンについて考え、能力開発を行いました。今後活躍する女性が増え、新たな風が吹くことを期待しています。

外国人の活用

企業にとっては大きな力になってくれる人材です。国内及び海外における事業の懸け橋となる人材として、定期的採用を進めています。彼らのモチベーションが他の社員のやる気にもつながり、異なる考え方や視点・技術を融合させることで新しい価値が創造でき、イノベーションの源泉にもなります。グローバルな視点で社会に貢献できることを期待しています。

表彰制度

創立記念式典、全国安全週間、全国労働衛生週間にあわせた表彰制度を導入しています。個々の活動や実績が会社に認められた者に対して表彰を行っています。納得がいくまでくらす実現した成果と、社員一人一人の成長を皆で喜び合う、そんな社風を今後も大切につづけていきます。

子育て支援制度

育児休業制度や育児短時間勤務制度（小学校就学まで）の充実により、子育てをしながら仕事と家庭を両立し、社員が安心して働ける職場環境を目指しています。

近年では、この制度を利用する男性社員も増えています。

**Staff's Voice**

**研修を終えて**



材料生産センター  
材料生産管理部  
瀧井 久子

目標達成に向け、今、自分に求められていること、やるべきこと、必要なことは何かを改めて見直すことができました。今後も、お客様が必要な物への対応力を第一に考え、お客様と一緒に何かを作り上げる気持ちで取り組んでいきます。持ち前の明るさと行動力を最大限にいかし、周囲に良い影響を与えることができるよう頑張ります。

**Staff's Voice**

**外国籍社員として**



グローバル市場開拓推進室  
杜 向南

中国出身の私は色々不安を抱えていましたが、上司や先輩が手厚くサポートしてくれます。仕事に行き詰まったときも気軽に相談できる、雰囲気の良い職場だと感じています。オハラの一員として、今後は中国などのビジネス市場を分析し、オハラのグローバル戦力のさらなる飛躍に向けて貢献していきたいと考えています。

**Staff's Voice**

**特別賞を受賞して**



光製品事業部 光製品開発部  
桃野 浄行

グループ会社の方々と協力して行った取り組みが評価され今回受賞することができました。オハラの社員だけでなくグループ会社も受賞したことを大変嬉しく思います。今後も自己研鑽に励み、社内外の皆様とともに会社や社会全体に貢献できるよう努めていきます。

**Staff's Voice**

**子育て支援制度を利用して**



材料生産センター 製造部  
坂上 美三子

私は現在時短勤務制度を使用し、朝の貴重な時間を兄弟の送りだしなどに活用しています。兄が小学校に入学し、目まぐるしい環境変化の中でしっかりと向き合えるのは、親子ともに助かっています。申請をすれば、朝夕のどちらでも設定できるので、取得の壁もありません。オハラの社風と職場の理解に支えられていると感じています。

2019年度活動レビュー

社員の尊重

各人のスキルアップを支援する研修、女性活躍推進の研修、次々世代の育成研修などを行い、社員がモチベーション高く働ける環境づくりを進めました。

また、作業環境のモニタリング強化と改善も進め、社員の健康維持に向けた取り組みも実施しました。

**自己評価** … ★★

目標達成度：★★★=100~85%   ★★=84~70%   ★=69%以下

2020年度の課題

多様な人材確保とグループ人材の有効活用を視野に入れ、同時に社員が働きがいや生きがいを感じられる環境を醸成していきたいと考えます。

グループ全体で未来を切り開くことのできる組織風土、可能性を追求し合える職場環境づくりに取り組んでいきます。

All OHARA

それぞれの個性をいかし、One OHARAからAll OHARAとして、総力戦で取り組んでいきます。

「オハラグループの未来を開くために！」

お客様と良好なコミュニケーション作りを大事にすること。



台湾小原光学股份有限公司  
営業 陳 惠君  
Waisyly Chen

常にお客様のニーズを考え、最善のサービスを提供すること。



華光小原光学材料(襄陽)有限公司  
後工程営業 丁波  
DingBo

与えられた仕事を消化するだけでなく、常に創造性と創意工夫に努めていくこと。



OHARA OPTICAL(M)SDN.BHD.  
ITシステム課 Vincent Teh

積極的にお客様に連絡して、信頼を高めていくこと。



小原光学(香港)有限公司  
営業 王誠鴻  
Wang Cheng Hung

明確な目標を設定して、オハラの仲間とともに協力しながら働くこと。



OHARA GmbH  
物流部 Andreas Tröger

職場の連繫を大切にして、チーム員のやる気を高めること。



株式会社オーピーシー  
製造 鈴木 一学  
Suzuki Kazumichi

検査精度向上のため、日々の設備管理維持に努めること。



株式会社オハラ・クオーツ  
検査 久野 純一  
Hisano Junichi

何事にも常に前向きに積極的な姿勢を持って挑戦すること。



台湾小原光学材料股份有限公司  
検査測定 林 淑美  
Lin Shumei

知恵を発揮し、技術革新の使命を果たすこと。



小原光学(中山)有限公司  
レンズ加工 化东召  
Hua Dongzhao

業務に携わる方々とコミュニケーションを大切にすること。



株式会社オハラ  
材料生産センター  
材料生産管理部 上山 裕美子  
Kamiyama Yumiko

業務の流れを改善するため社内でも密接に連絡を取り、効率よく業務に取り組むこと。



Ohara Corporation  
会計 Kip Jiorle

	2015	2016	2017	2018	2019 (年度)
<b>主な経営成績</b> (単位: 百万円)					
売上高	22,820	21,329	24,628	28,221	23,407
営業利益	538	143	1,715	3,270	901
経常利益	1,316	△ 84	2,242	3,705	1,146
親会社株主に帰属する当期純利益	545	△ 372	1,513	3,220	466
純資産	41,522	37,040	41,204	44,040	41,813
総資産	55,130	50,161	54,433	58,221	55,036
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,573	1,447	1,960	3,016	1,927
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 979	△ 850	△ 1,410	△ 937	△ 335
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,137	△ 354	△ 1,736	△ 1,158	△ 1,013

<b>1株当たりデータ</b> (単位: 円)					
純資産	1,706.97	1,522.70	1,693.90	1,810.47	1,717.98
当期純利益	22.43	△ 15.31	62.23	132.37	19.16
配当金	15.00☆	10.00	20.00	30.00	15.00

☆うち記念配当5円

<b>主な指標</b> (単位: %)					
自己資本比率	75.3	73.8	75.7	75.6	76.0
ROA (総資産経常利益率)	2.4	△ 0.2	4.3	6.6	2.0
ROE (自己資本利益率)	1.3	△ 0.9	3.9	7.6	1.1
PER (株価収益率)	26.36	-	35.64	18.02	78.49
配当性向	66.9	-	32.1	22.7	78.3

<b>セグメント情報</b> (単位: 百万円)						
光事業	売上高	16,105	14,418	15,334	17,625	14,205
	営業利益	366	△ 107	688	1,373	82
エレクトロニクス事業	売上高	6,714	6,911	9,294	10,596	9,201
	営業利益	171	251	1,027	1,897	818

IR情報メール配信のご案内

最新の適時開示、ニュースリリースなどのIR情報をメールでお知らせします。右記QRコードからメールアドレスのご登録をお願いします。

URL <https://www.magicalir.net/5218/mail/>



会社概要 (2019年10月31日現在)

商号 株式会社オハラ  
 所在地 〒252-5286 神奈川県相模原市中央区小山1-15-30  
 TEL 042-772-2101 (代) FAX 042-774-1071  
 創立 1935年10月1日  
 資本金 58億5千5百万円  
 事業内容 光及びエレクトロニクス事業機器向けガラス素材の製造・販売  
 従業員数 436名 (グループ全体1,606名)

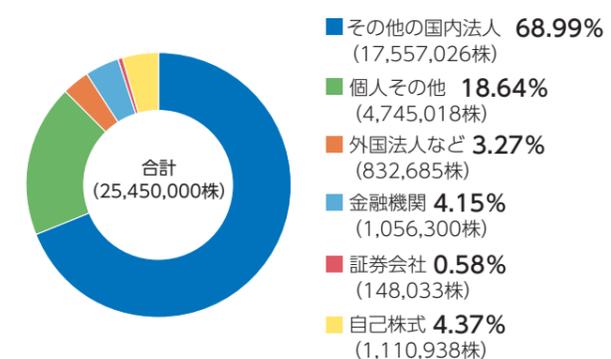
株式情報 (2019年10月31日現在)

株式の状況  
 発行可能株式総数 76,000,000株  
 発行済株式の総数 25,450,000株  
 株主数 9,201名  
 大株主

株主名	持株数(株)	出資比率(%)
セイコーホールディングス株式会社	4,702,722	19.32
キヤノン株式会社	4,694,380	19.29
京橋起業株式会社	4,688,400	19.26
三光起業株式会社	1,651,400	6.78
株式会社トプコン	673,600	2.77
セイコーインスツル株式会社	610,000	2.51
オリンパス株式会社	400,000	1.64
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	273,000	1.12
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	264,200	1.09
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口5)	157,000	0.65

(注) 出資比率は、自己株式(1,110,938株)を控除して計算しています。自己株式には、「株式給付信託(BBT)」制度の導入に伴い資産管理サービス信託銀行株式会社(信託E口)が保有する当社株式88,500株が含まれています。

所有者別株式数分布状況



役員一覧

代表取締役 社長執行役員 齋藤 弘 和  
 取締役 専務執行役員 中島 隆  
 取締役 常務執行役員 青木 哲也  
 取締役 常務執行役員 後藤 直雪  
 社外取締役 市村 誠  
 社外取締役 戸倉 剛  
 社外取締役 内田 省寿\*  
 社外取締役 軒名 彰\*  
 常勤監査役 原田 洋宏  
 社外監査役 高木 晴彦  
 社外監査役 長島 和彦  
 社外監査役 杉田 光義\*

(※) 社外取締役内田省寿、軒名彰及び社外監査役杉田光義の3名は東京証券取引所の定めに基づく独立役員であります。

株主メモ

事業年度 毎年11月1日～翌年10月31日  
 剰余金の配当基準日 10月31日(中間配当を行う場合は4月30日)  
 定時株主総会 毎年1月下旬  
 単元株式数 100株  
 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲1-2-1  
 事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部  
 公告方法 電子公告  
 (https://www.ohara-inc.co.jp/)  
 ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社などに口座をお持ちの場合	証券会社などに口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
お取扱店	お取引の証券会社になります。	みずほ証券 本店及び全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)でもお取扱します。 みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 *トラストラウンジではお取扱できませんのでご了承ください。
未払配当金のお支払い	みずほ信託銀行及びみずほ銀行の本店及び全国各支店(みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取り以外の株式売買はできません。証券会社などに口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。